

キャリア支援の現場から

キャリア委員長 飛永高秀
(地域包括支援学科教授)

学生のキャリア志向性に着目したサポート体制の再構築

私たちの生活を一変させた新型コロナウイルス感染症の猛威はまだ終息していません。コロナ禍における学生のキャリア支援や就職活動はどのようになっているのか、多くの方が心配されているかと思えます。

このコロナ禍における学生の就職活動は以前とは少し異なる状況にあります。昨年度(2021年3月卒業)の卒業生は、コロナ以前の採用計画・スケジュールの中で就職をしました。しかし、今年度に入りコロナの影響が企業の採用計画に変化をもたらしています。特にコロナ禍で大きなダメージを受けたサービス業や飲食業、観光関連、航空業界などは採用を大幅に減らしている現状、若しくは採用活動を中止している実情があります。この傾向はコロナが終息するまでの間、不安定な状況が続くのではないかと思います。一方、採用活動ではオンライン面接が一般化し、画面上の表情の写り方など面接を行う際の新たな環境を整える必要性も出てきています。

次に本題となる本学のキャリア支援・就職支援についてです。本学においては、学科と各学生の志向性によってキャリアプランが大きく異なるという特徴があります。一般企業へ就職する学生は、学科によってその割合は異なりますが、サービス業や金融・保険業、運輸・郵便業、卸業・小売業等の多岐にわたる業種を目指しています。

一方で、取得した資格・免許を活かし専門職として就職しています。文化コミュニケーション学科における中・高校教諭や図書館司書、地域包括支

援学科における社会福祉士、精神保健福祉士や介護福祉士などの医療・福祉分野、こども教育保育学科における小学校幼稚園教諭や保育士などがその例です。そして、心理学を専攻する学生の中には、本学大学院への進学を目指し公認心理師を目指す者もいます。

このように学生の就職意向には大きく①一般企業への就職と②専門的な資格を活かした就職の2つがあります。この二つの学生ニーズに対応したキャリア支援と就職活動への支援が必要となります。

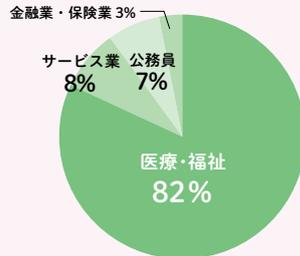
さらに2019年度より全学科完全男女共学化し、男子学生の数も多くなっています。その中で、「公務員」に対する志向も増えています。単に「公務員」と言っても国・県・市町村の行政職員から警察・消防、法務、自衛官まで幅広くあり、その受験職種により、勉強方法も異なるため、大学のキャリア支援で対応することは難しいです。そのため、外部の公務員試験対策の専門学校等をうまく活用し、早い段階から準備するよう情報提供を行う必要があります。

本学での学びをいかに将来の職業人として生かし、繋げていくのがキャリア支援・就職支援では重要となります。そのような動機づけを学科の特性と学年を考慮し、必要な時期に必要な情報を随時提供し、積極的に関わっているサポート体制をカリキュラムの改定等を踏まえ再構築し、学生の自己実現の一步を応援していきたいと考えています。

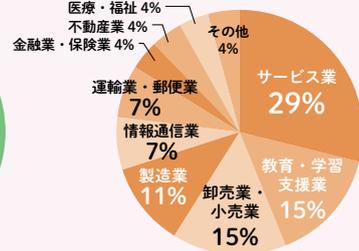
就職実績

2020年度進路状況(2021年3月卒業)

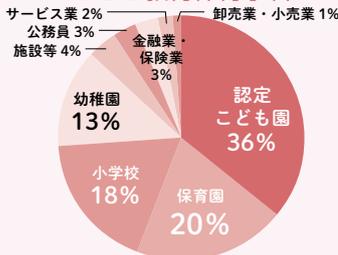
地域包括支援学科



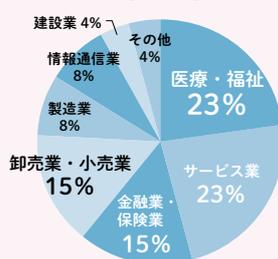
比較文化学科



こども教育保育学科



人間心理学科



英語情報学科

